

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社セントラルフーズ狭山工場	階数	地上2F
建設地	埼玉県狭山市大字上広瀬字西久保	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	160人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,700時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年8月6日
敷地面積	10,017 m <sup>2</sup>	作成者	鍋田 光政
建築面積	3,860 m <sup>2</sup>	確認日	2020年8月6日
延床面積	4,717 m <sup>2</sup>	確認者	鍋田 光政



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>十分な断熱性能を持ち、衛生管理が行いやすい食品工場としている。</li> <li>メンテナンス性が高い建築、設備計画としている。</li> <li>敷地周囲に緑地を配し、周辺環境及び従業員への労働環境に寄与している。</li> <li>将来の増築を意識した建物計画としている。</li> </ul>	
<b>Q1 室内環境</b> 昼光率を高めに設定し、光・視環境に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> O Aフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
株式会社セントラルフーズ狭山工場

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.31</b>		-	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.5</b>	0.15		-	<b>2.5</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音						<b>3.4</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能		事務室) Dr値=40				<b>3.0</b>	0.60		-	
2 界壁遮音性能						<b>4.0</b>	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-	
1.3 吸音		事務室) 床: タイルカーペット、天井: 岩綿吸音板				<b>4.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.7</b>	0.35		-	<b>2.7</b>
2.1 室温制御						<b>3.2</b>	0.50		-	
1 室温						<b>3.0</b>	0.38		-	
2 外皮性能		外皮の断熱強化、複層ガラスの採用				<b>4.0</b>	0.25		-	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.38		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.5</b>	0.25		-	<b>3.5</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30		-	
1 昼光率		事務室) 2.5% ≤ [昼光率]				<b>5.0</b>	0.60		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40		-	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御						<b>3.0</b>	1.00		-	
3.3 照度		事務室) 800lx				<b>4.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.3</b>	0.25		-	<b>4.3</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用				<b>4.0</b>	1.00		-	
4.2 換気						<b>4.3</b>	0.30		-	
1 換気量		事務室) 1.4倍以上				<b>5.0</b>	0.33		-	
2 自然換気性能		事務室、会議室) 1/15以上				<b>5.0</b>	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.33		-	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視							-		-	
2 喫煙の制御		喫煙室は、天井裏まで区画してかつ負圧に保つなど、十分な流出対策をしている				<b>5.0</b>	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>		-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.8</b>	0.40		-	<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>1.6</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性						<b>1.0</b>	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	0.33		-	
3 バリアフリー計画						<b>1.0</b>	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						<b>3.6</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観						<b>3.0</b>	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機の設置				<b>5.0</b>	0.33		-	
3 内装計画						<b>3.0</b>	0.33		-	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		トイレは清掃しやすい内装材、水切りの設置など維持管理に配慮				<b>4.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30		-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.3</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床: 塗床ノカーペット20年、壁: クロス20年、天井: ボード類30年				<b>5.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクト: ガルバリウム鋼板、厨房排気ダクト: ステンレス板				<b>4.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用				<b>5.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>3.2</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備		光ケーブル、PHS等通信機器の多様化、ネットワーク機器に無停電装置の設置など				<b>4.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.3</b>	0.30	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	工場) [壁長さ比率] ≤ 0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
工場) 4500N/㎡以上							
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラックにより仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック、PF配管配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.39</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
BPI <sub>m</sub> =0.51							
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>2.1</b>	0.50	-	-	<b>2.1</b>
[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.97							
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
自動水栓や節水型便器を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
断熱材-床下							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用							
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつ、GWP=50未満の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半をみたし、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート











■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	株式会社セントラルフーズ狭山工	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.0	+	2.6	=	5.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・敷地周囲に緑地を配するなど、敷地内の温熱環境に配慮している。			

: 入力欄